

事務事業評価 説明資料

# 焼山地区活性化

観光商工部 観光推進課

# 焼山地区活性化計画

## 計画の狙い

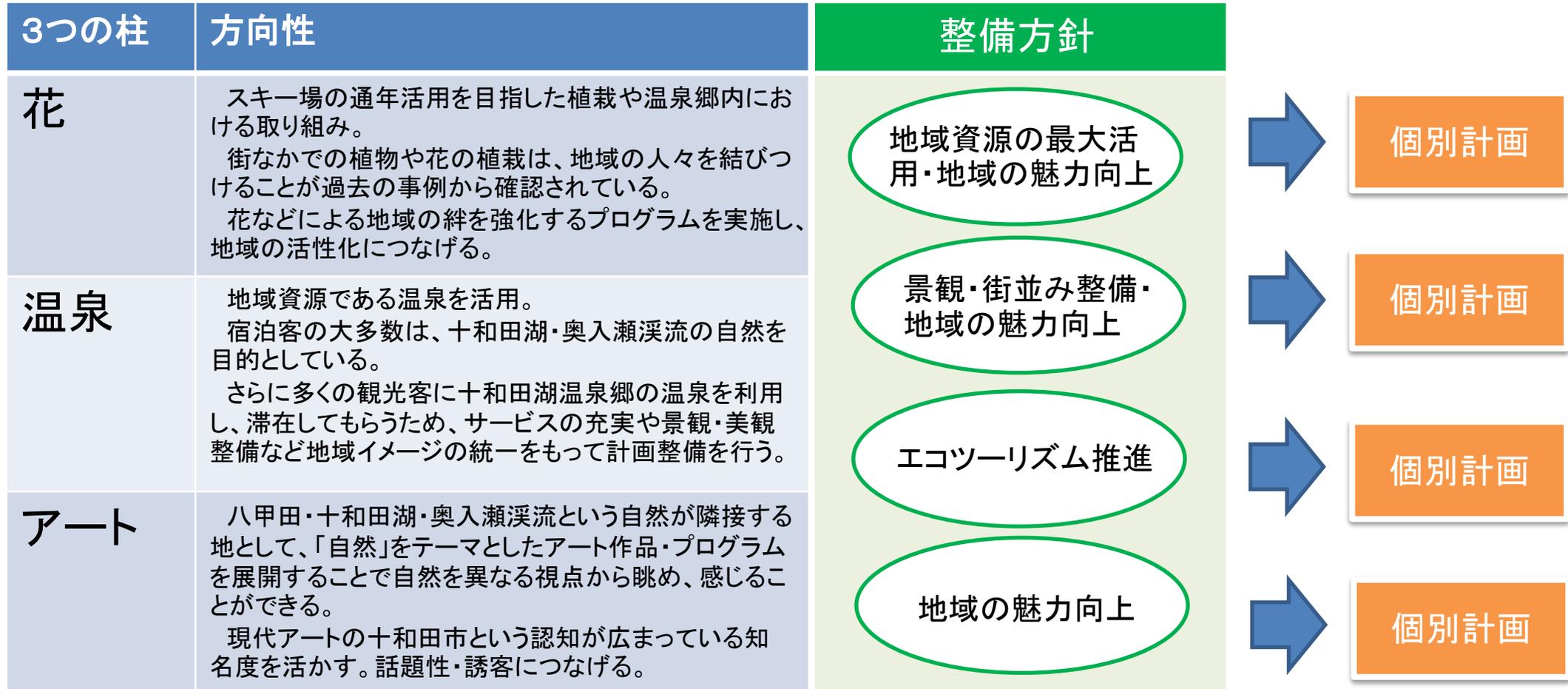
～本市の観光拠点「まちなか・焼山・湖畔」地域における焼山の意義～

- 十和田湖・奥入瀬地域の玄関口であり、他都市へ通じる交通の要衝。焼山地区の魅力向上が、「まちなか・湖畔地域」へのさらなる誘客に発展。
- 国立公園の特別保護地区という、強固な利用規制下にある奥入瀬溪流に隣接して外側に位置するため、新たな造成・建築等を行うことが可能。原生性を保つ稀有な自然に至近の利便性。
- スキー場・温泉など、活用可能な観光資源の存在
- 過疎地域の活性化を図る「過疎地域自立促進法」の対象地域  
⇒ 過疎債の活用が可能（7割が交付金で手当されるという財政メリット）

※焼山・八甲田地区宿泊者数

（平成26年度）105,202人 （平成27年度）111,544人 （平成28年度）113,946人 目標値：平成32年度130,000人

# テーマ：焼山地区の自然と景観を活かした活性化



# これまでの取り組み

テーマ	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
花	H26. 5 基本計画策定		①芝桜デザイン構想	芝桜植栽業務
温泉	H27. 3 実施計画策定	他の計画との整合を図るための調整期間	②揚湯試験・温泉モニター調査	
アート			<ul style="list-style-type: none"> <li>・まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定(28.2)</li> </ul>	③焼山アートプロジェクト  <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画の策定(29.3)</li> <li>・公共施設等総合管理計画の策定(29.3)</li> </ul>
地域の魅力向上				④観光資源調査 ⑤スキー場リフト調査

# 平成28年度の状況

事業名(事業費:千円)	取り組み内容	成果・方向性
①芝桜デザイン構想(3,148)	緩斜面の基本デザイン策定	平成29年度に植栽 平成30年度も踏襲 その間に急斜面对策、リフト改修・更新等の個別計画を確定
②揚湯試験・温泉モニター調査(7,780)	必要量の確保・供給に向けた調査と泉質評価	確保と供給のためには更なる調査が必要。今後も継続して調査したい。
③焼山アートプロジェクト(5,054)	焼山地区の魅力向上と、観光交流人口の増加を目指した試行プロジェクト	奥入瀬溪流館と現美に作品を展示(10/22-11/6) 奥入瀬溪流館でワークショップ開催(10/22.23) 「焼山はアートがあって面白い」の声⇒アートの広がりへの期待(次頁)
④観光資源調査(2,050)	ANA総研による十和田湖温泉郷の調査と報告会	十和田湖温泉郷の魅力と課題を認識 魅力:位置的優位、多様な宿泊施設、ガイドの存在 課題:廃屋、高齢化、二次交通、HP・SNSの不足
⑤スキー場リフト調査(572)	グリーンシーズンにおけるリフト活用可能性の調査	夏のリフト活用のために必要な改修コスト調査 (改修費用約6千万円、リフト設置から28年経過)

(平成28年度合計18,604千円)

## 実施事業の一例

# 焼山アートプロジェクト 山にあく風景

事業費5,054千円

■会期:平成28年10月22日(土)~11月6日(日) 16日間

■会場:奥入瀬溪流館レクチャールーム、十和田市現代美術館 ■観覧料:無料

■内容:焼山地区の魅力向上と観光交流人口の増加を目指す。現代美術館と溪流館の2会場で展示することで相互の会場に訪れた観光客を、もう一方に誘導する。作品は焼山の自然の魅力に気付くことを意図した。



現代美術館での展示



奥入瀬溪流館での展示

ここで切り取る美しい自然もアート作品

溪流館でのワークショップ

作家がみずから講師を務めた。焼山の落ち葉や枝で型抜きしTシャツやバッグを作成。焼山の自然を持ち帰ってもらう。



●入場者数

合計3,106人

内、現代美術館2,455人

奥入瀬溪流館651人

●ワークショップ参加者 22人

# エリアごとの整備概要

<h2>十和田湖温泉スキー場</h2>	<h3>要素</h3>	<h3>整備の検討</h3>
<p><b>スキー場通年利用の実現と魅力向上</b> 春夏秋を含むスキー場の通年利用を目指す。スキー場の魅力を向上すべく、施設・サービス・プログラムの実施などの再整備を行い、既存の地域資源を最大限活用する。</p>	<p>アート 花樹木 アクティビティ 眺望散策 施設充実</p>	<p>エントランスハウス、展望ステージ、第1リフト改造、リフト事務所、コミュニティセンター整備など</p>
<h2>十和田湖温泉郷</h2>	<h3>要素</h3>	<h3>整備の検討</h3>
<p><b>焼山地区観光のための拠点エリアとして</b> 奥入瀬溪流観光における拠点エリアとして、景観・街並み整備、地域全体の魅力向上、バスターミナルなど交通拠点の整備を行う。</p>	<p>花樹木 温泉 景観 観光案内 交通拠点</p>	<p>景観緑化、サイン整備、街灯整備、奥入瀬バイパス開通を見据えた検討など</p>
<h2>奥入瀬溪流館・湧水館</h2>	<h3>要素</h3>	<h3>整備の検討</h3>
<p><b>エコツーリズム、環境保全活動の拠点</b> 奥入瀬溪流観光におけるエコツーリズムの拠点として活用し、奥入瀬溪流観光の拠点とする。</p>	<p>奥入瀬溪流 エコツーリズム 活動拠点 環境保全 啓発展示</p>	<p>ガイドカウンター機能を創設する溪流館、湧水館のリノベーションなど</p>
<h2>第二温泉郷</h2>		<h3>整備の検討</h3>
<p><b>温泉を活用した新たな産業の創出等</b> 温泉源の整備、温泉郷への配湯の検討。温泉源を活用し、野菜、果物等の栽培など、地域における新たな産業の創出を目指す。</p>		<p>温泉源の整備、温泉郷への配湯の検討、温泉源の活用など</p>
<h2>湯ノ台</h2>		<h3>整備の検討</h3>
<p><b>新たなアクティビティ</b> 民間事業者が行う取組に対し、連携を図る。</p>		<p>新たなアクティビティなど</p>

# 今後の焼山地区の期待

増加する訪日外国人客。この客層の特徴は、閑散期(安い時期)に旅行する。

- 今年度から奥入瀬溪流ホテルが通年営業
  - ・雪のないアジアからの誘客
  - ・さらによい雪質を求める欧米客の長期滞在化
- JRバスの冬季運行再開のための状況作り

- グリーンシーズン・スノーシーズンともコンテンツを増やす必要がある
- スキー場、温泉、奥入瀬、コケ等の資源をさらに生かす

「もう1泊」の実現で、雇用、若者定住、域内消費の底上げを目指す